日田市埋蔵文化財調査報告書第67集

大肥遺跡 Ⅲ

― A-2区の調査概要 ―

2006年

日田市教育委員会

大肥遺跡Ⅲ ―A-2区の調査概要―
日田市埋蔵文化財調査報告書第67集
2006年
日田市教育委員会

序　文

古来より九州の交通の要所であった本市には、多くの文化財が市内各所に残され、中でも、市西部の大肥川一帯に広がる谷地は北部九州への玄関口として、数多くの遺跡が分布することが近年明らかになりつつあります。

さて、この地域では平成９年度より大規模な農業基盤整備事業が施工され、工事によってやむなく消滅する埋蔵文化財について、当委員会では事前に発掘調査による記録保存を実施してまいりました。

本書は、そのなかでも平成14年度に県営圃場整備事業大明地区大肥工区に伴って発掘調査を行った、大肥遺跡の調査内容をまとめたもので、弥生時代前期末～後期の集落跡、甕棺墓などの墳墓群、この集落を囲む流路跡や古墳時代中期～後期の集落跡などが発見されました。なかでも、弥生時代の流路跡から出土した農具や生活具、木甲などの木製品は市内でも類例の少ない資料として注目されます。

本書が市民の方々の埋蔵文化財に対する理解と保護につながり、地域の歴史の解明や学術研究等にご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、作業に従事いただきました皆様方や、調査にご協力いただきました関係者の方々に対しまして心から厚くお礼申し上げます。

平成１８年３月

日田市教育委員会
教育長　諫山　康雄

例　言

1．本書は、日田市教育委員会が平成14年度に実施した大肥遺跡A-2区の発掘調査報告書である。本報告はA-2区の概要及び木器を中心とした写真図版を掲載し、本編およびその他の写真図版に関しては、今後の刊行予定である。なお、A-2区の調査経過、組織等、立地と環境は「大肥遺跡Ⅱ」日田市埋蔵文化財報告書第66集に掲載している。

2．調査は県営圃場整備事業大明地区に伴い、大分県日田地方振興局の委託業務として、日田市が受託し、日田市教育委員会が事業主体となり実施した。

3．調査にあたっては大分県日田地方振興局耕地課、日田市農林経済部農政推進課、大明地区圃場整備組合組合長　森山有男氏の協力を得た。

4．調査現場での遺構実測は担当者が行い、一部を雅企画有限会社に委託した。写真撮影は渡邉・行時が行い、一部写真撮影を雅企画有限会社に委託した。

5．本書に掲載した遺物実測は渡邉が行い、一部を株式会社九州文化財研究所に委託した。製図は中川照美（文化財保護課補助員）の協力を得た。

6．空中写真撮影は有限会社スカイサーベイに委託し、その成果品を使用した。

7．遺物写真は長谷川正美氏（雅企画有限会社）の撮影による。

8．出土遺物および図面、写真類は日田市埋蔵文化財センターにて保管している。なお木器の保存処理は一部を（財）元興寺文化財研究所に委託し、その他に関しては大分県立歴史博物館の協力を得た。

9．本書の執筆編集は渡邉が担当した。

本文目次

Ⅰ．調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
Ⅱ．調査の内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
Ⅲ．まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

挿　図　目　次

第１図　水さらし場状遺構実測図（1/80）……1
第２図　杭列（堰）実測図（1/80）……2
第３図　遺構配置図（1/300）……3・4
第４図　出土木器実測図（1/4、1/6、1/12）…3・4
第５図　A・B区周辺地形図（1/6000）…3・4
第６図　出土土器実測図（1/4）……5
写真１　出土墨書土器　……5

写真図版目次

写真図版１　上段　調査区遠景（北から）
　　下段　調査区全景（真上から）
写真図版２　上段　調査区近景（北から）
　　下段　水さらし場状遺構（真上から）
写真図版３　上段　水さらし場状遺構検出状況（東から）
　　下段　水さらし場状遺構完掘状況（東から）
写真図版４　上段　水さらし場状遺構完掘状況（北から）
　　下段　導水路状遺構完掘状況（西から）
写真図版５　上段　1号木枠組遺構完掘状況（北から）
　　下段　2号木枠組遺構完掘状況（北から）
写真図版６　上段　堰状遺構完掘状況（東から）
　　下段　杭列（堰）完掘状況（西から）
写真図版７　上段　木製品群出土状況①
　　下段　木製品群出土状況②
写真図版８　上段　木甲出土状況①
　　下段　木甲出土状況②
写真図版９　上段　木甲出土状況③
　　下段　高坏出土状況
写真図版10　上段　三又鍬出土状況①
　　中段　三又鍬出土状況②
　　下段　三又鍬出土状況③
写真図版11　上段　三又鍬出土状況④
　　中段　三又鍬の刃出土状況
　　下段　三又鍬の刃出土状況
写真図版12　上段　又鍬出土状況
　　中段　鍬出土状況
　　下段　鋤柄出土状況
写真図版13　上段　組合せ着装具出土状況
　　中段　三又鍬、火鑽臼、皿等出土状況
　　下段　平鍬未製品出土状況
写真図版14　上段　泥除出土状況
　　中段　又鍬出土状況
　　下段　斧柄出土状況
写真図版15　上段　杓子出土状況①
　　中段　杓子出土状況②
　　下段　不明木製品出土状況①
写真図版16　上段　不明木製品出土状況②
　　中段　不明木製品出土状況③
　　下段　不明木製品出土状況④
写真図版17　上段　建築部材出土状況①
　　中段　建築部材出土状況②
　　下段　建築部材出土状況③
写真図版18　上段　礎板柱木出土状況①
　　中段　礎板柱木出土状況②
　　下段　柱木出土状況
写真図版19　上段　土器出土状況①
　　中段　土器出土状況②
　　下段　土器出土状況③
写真図版20　　木甲
写真図版21　　農具類
写真図版22　　農具類
写真図版23　　工具・高坏
写真図版24　　容器類
写真図版25　　雑具・不明木製品
写真図版26　　建築部材
写真図版27　　建築部材
写真図版28　　建築部材
写真図版29　　部材、柱

Ⅰ　調査の概要

A-2区は大肥工区のなかでも最南端の、大肥川が蛇行する沖積地上に位置し、東側にはＢ区が隣接する。検出面の標高は約92.50mを測り、Ｂ区との比高差は約１m程である。このことから、Ｂ区が微高地状を呈し、ＪＲ線路付近で西側に大きく下がり、A-2区から西側に向かって自然と低くなっているものと考えられる。このことは、『大肥遺跡Ⅱ』「第１章（2）２　試掘調査の概要」にて述べているとおりで、またB-2区の西側が若干傾斜していることもその論拠となろう。

調査は道路、水路工事に伴う箇所約1,000m²を対象として実施した。調査区より南は近年の水田造成により既に削平を受け、道路を挟んで北側には流路の広がりは認められず、流路は北西に向かって蛇行してゆくものと想定される。遺構は水田基盤土直下より検出された。近年の土壌改良に伴う暗渠が調査区内を縦横無尽に走り、大幅な攪乱が見られるものの、掘立柱建物群や、調査区の大半を占める流路が確認された。地山は灰黄褐色を呈し、掘立柱建物群の埋土は黒褐色土、流路の埋土は黒色土、灰色砂質土である。検出された主な遺構は掘立柱建物群４棟以上、流路４条、土坑数基、柱穴多数である。

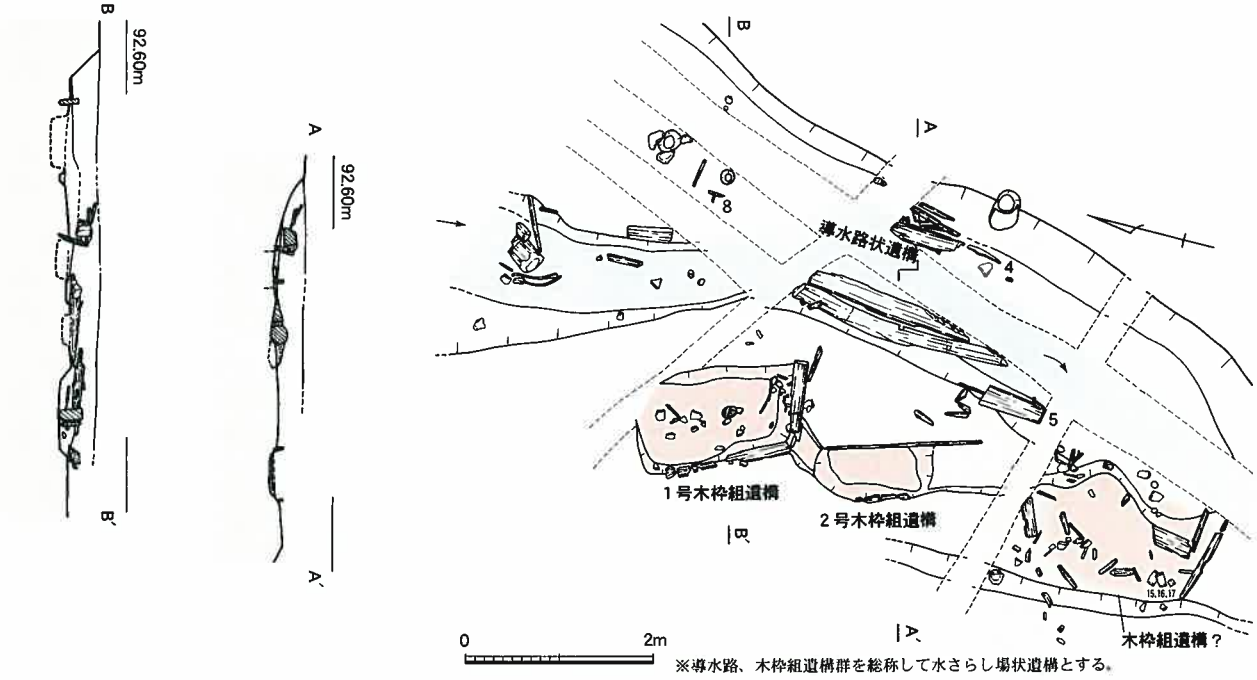
Ⅱ　調査の内容（第２図）

調査区内より出土した遺構と遺物について解説を加える。ただし、平成17年度現在において木器・土器の整理が完了していないことから、今回は主要な遺構、遺物の概要説明に留め、今後の本報告において詳細を述べることとする。

１．掘立柱建物群　調査区南側において掘立柱建物跡群４棟以上が確認された。調査区外へと延びる柱穴の並びも見られることから、複数棟が重複している可能性が高い。１間×２間などやや小形のものが多く、柱穴からは柱木が出土した。

２．流路　全部で４条の流路は、切り合い関係より１⇒２・４⇒３号流路の順に流れるものと想定され、２～４号は東西方向、１号流路は南北方向に蛇行して流れる。ここでは１号、２～４号流路に分けて説明する。

１号流路　調査区内での幅は12m以上を測り、南北方向に蛇行している。南側は調査区外へと伸び、

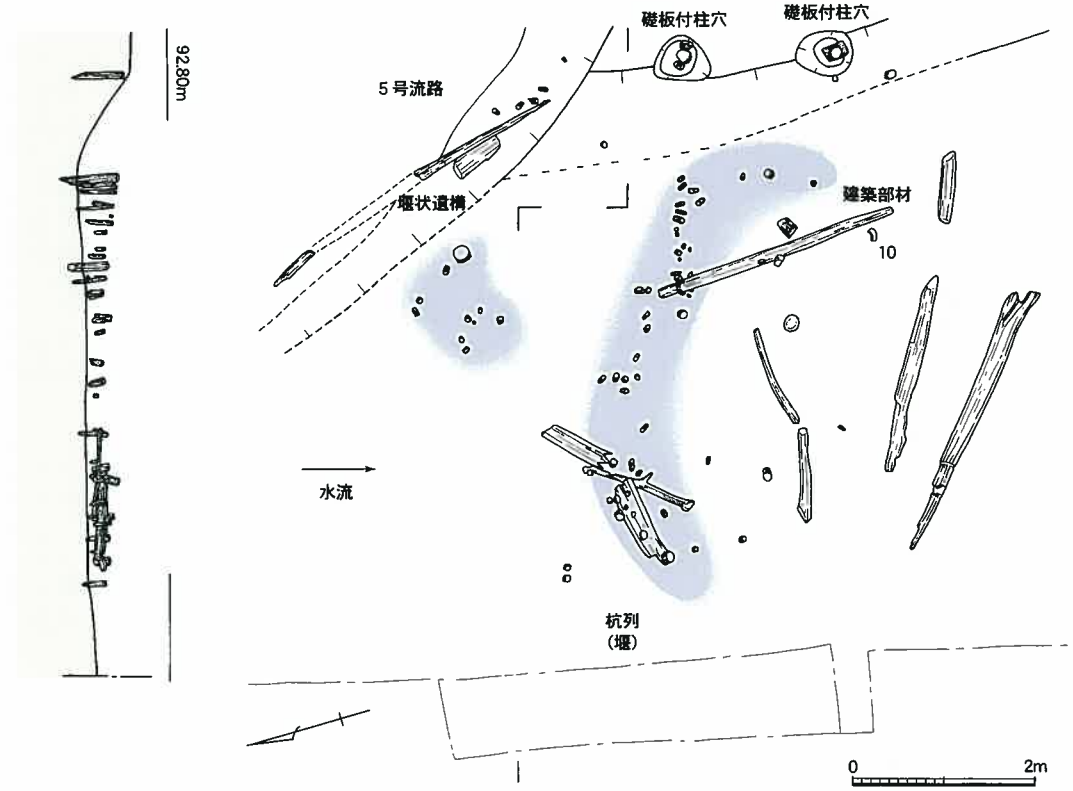


第１図　水さらし場状遺構実測図（1/80）

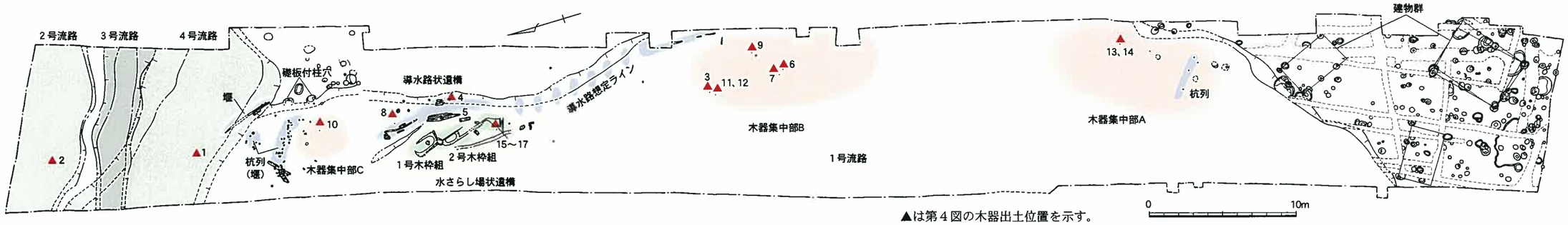
北側は２～４号流路に切られており、詳細は不明である。埋土は暗黒褐色土及び、灰色砂質土などが複雑に入り混じり、特に黒色系土層は流路東側（前期末～後期前半）、灰色系土層（後期後半）は西側に堆積し、少なくとも２回以上の流路の流れ直しが確認される。出土遺物も弥生前期末～中期前半、中期中頃～後半、後期前半、後期後半～終末の概ね４時期に分かれ、それらが流路内に部分的に固まって出土することから、複数回の流れ直しがあったことが理解される。また、数箇所の木器の集中部は、貯木などの機能を有していた可能性が考えられる。このうち、最も古い時期にあたる弥生前期末～中期前半には、北側の最上流部に**杭列（堰）**（第２図）、やや下流に**導水路状遺構**、２～３基の**木枠組遺構**を伴う**水さらし場状遺構**（第１図）が設けられる。詳細な時期検討は本報告に譲り、その内容について述べる。

杭列（堰）は、東西方向に並んだ状態で設置され、大形の木材が堰周辺に散乱していた。杭はほぼ直立し、一部板に打ちつけたものも見られた。杭の間には場所によっては小形の木材を留めて堰の機能を高めていたものと思われる。**導水路状遺構**は、北側では地山を窪ませて溝を形成し、木枠組東側では西に太さ４～50cm程度の木材を２本、東に30cm程度の木材を１本並べ、杭で固定している。この木材の下流には掘り込みが見られ、さらに下流の流路壁際にやや大形の木材が点々と設置されていることから、流路に沿って導水路が埋置されていたものと想定される。**木枠組遺構**は約1.8×１m、約1.2×0.6mの２基が確認され、上下に並ぶ。さらに下流に、板状の木が東西方向に配置され、この部分まで木枠組遺構が広がっていた可能性が想定される。この木枠組遺構群は連続的に配置され、特に１、２号の間には水流のための溝状の窪みが見られることなどから、同時期性が高いと考えられる。また、この水さらし場状遺構周辺から、アク抜き不要なイチイガシ以外に、アク抜きの必要なコナラ属類、アカガシの種実遺体が出土している。このような食物加工機能を有する遺構群が多数見られる北九州市の長野小西田遺跡[1]例と本遺跡は類似していることからも、堅果類の水さらし施設としての機能を有していたものと考えられよう。また、導水路と木枠の間の空間には平鍬未製品やミカン割材などの用材が置かれており、水漬施設が併設利用されていた可能性が考えられる。

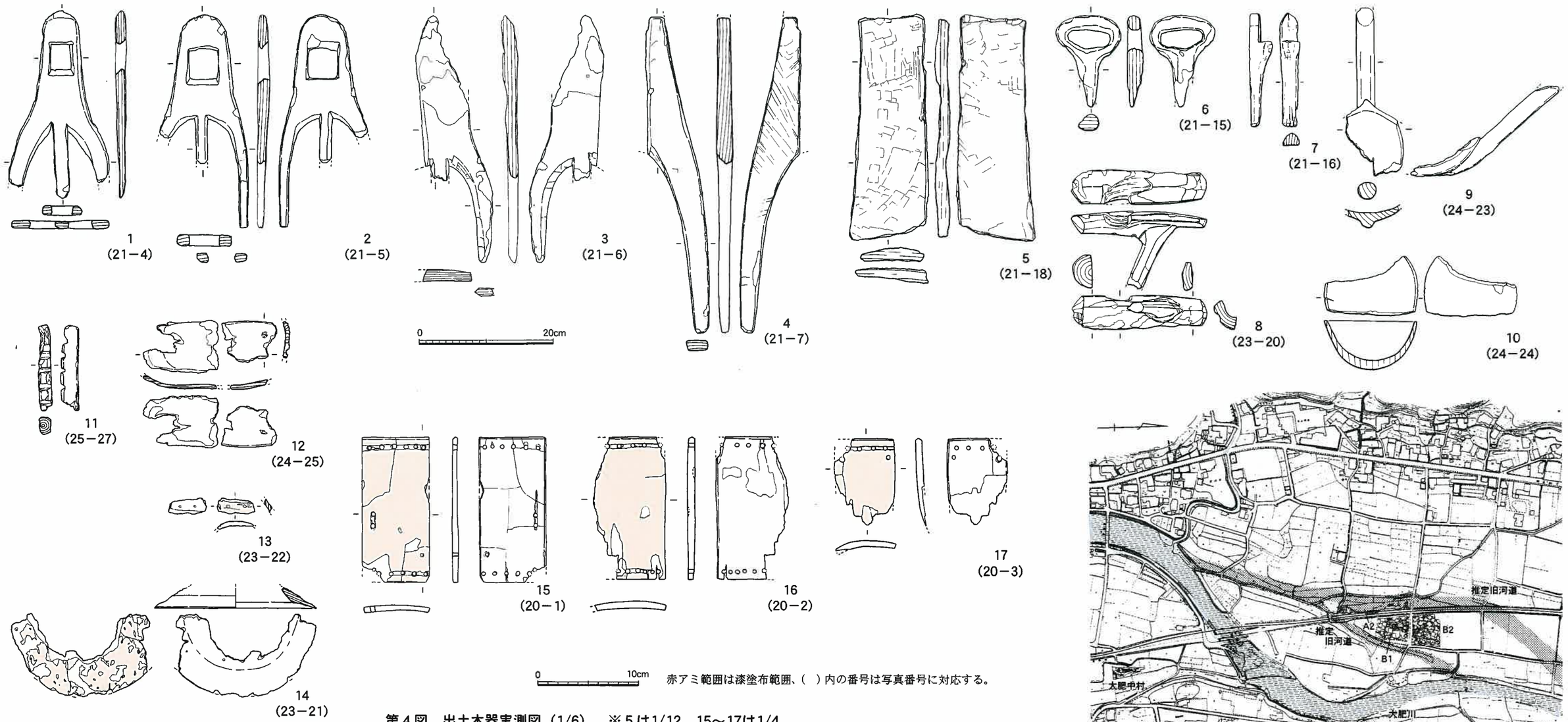
２～４号流路　東西方向に流れ、１条の流路の流れ直しともとれるが、別流路として報告する。埋土



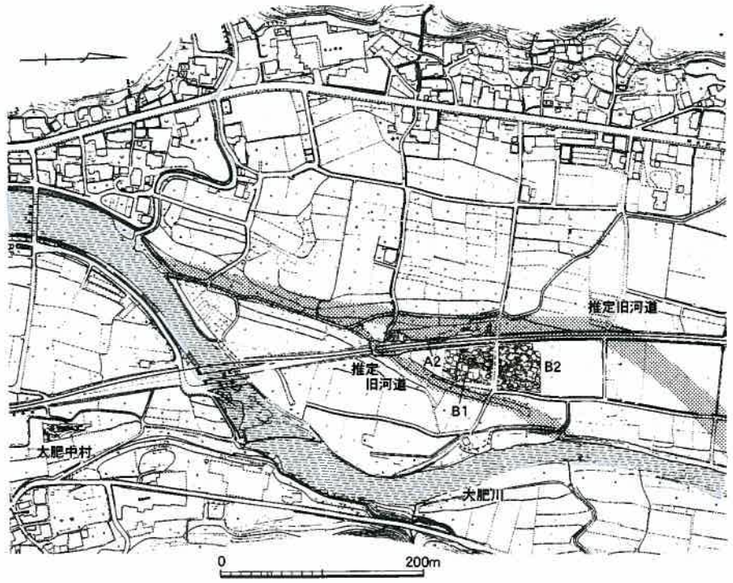
第２図　杭列（堰）実測図（1/80）



第３図　遺構配置図（1/300）



第４図　出土木器実測図（1/6）　※５は1/12、15〜17は1/4



第５図　A・B区周辺地形図（1/5000）

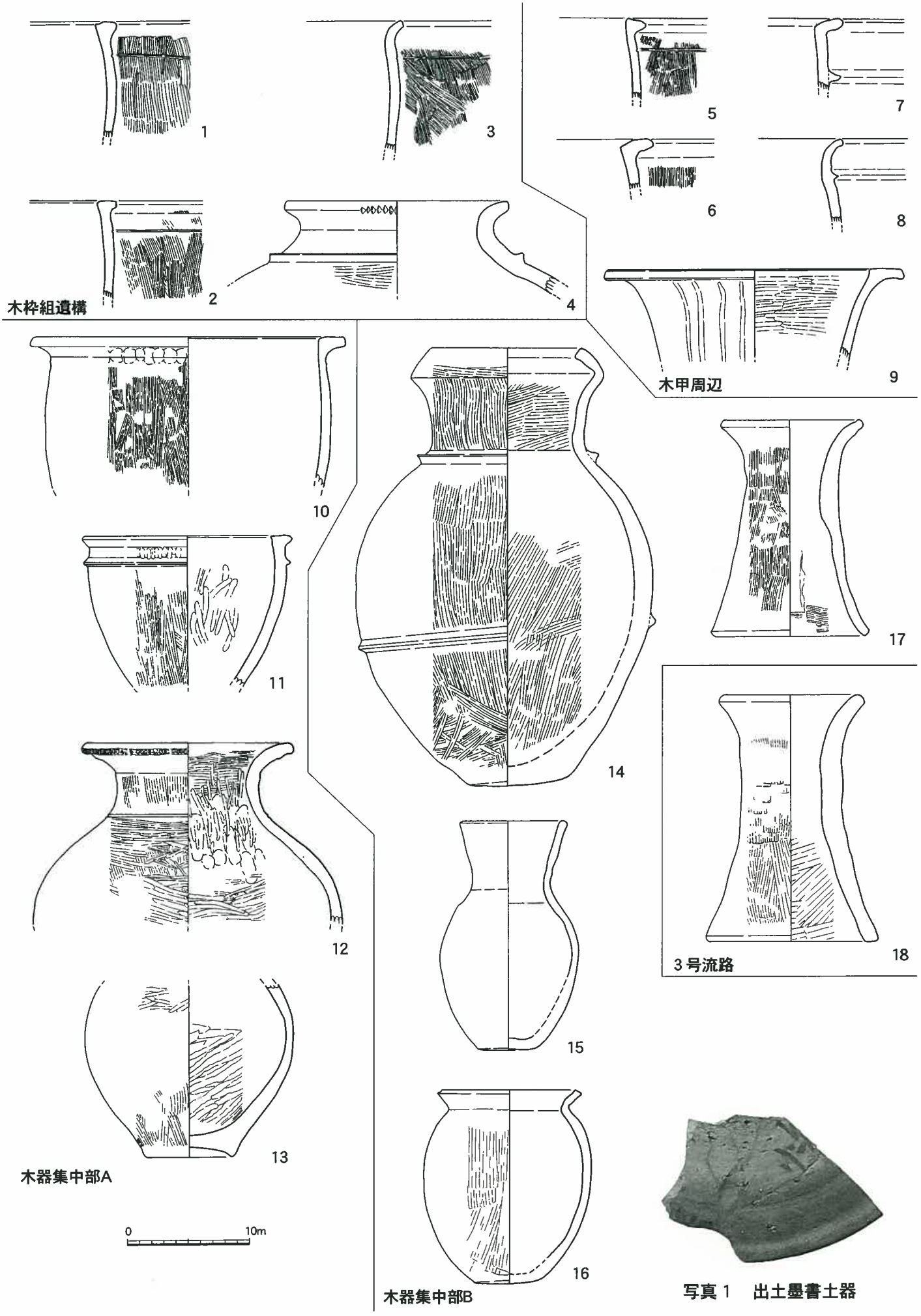

1
2
3
4
5
6
7
8
9
木枠組遺構
木甲周辺
10
11
12
13
14
15
16
17
18
3号流路
木器集中部A
木器集中部B
0
10m

写真１　出土墨書土器

は１号とは異なり灰色砂質土が大部分を占め、出土遺物は弥生後期に属する。１号流路の大半が埋没した際に流れを変更した可能性が高く、４号流路には１号流路を切る箇所に横板による**堰**（第２図）が設けられる。

３．出土木器（第４図）　出土した木器は製品、加工木等で総数1000点余りを数えるが、その大半は杭や建築材等であり、製品と想定されるものは40点程度と比較的少ない。また、製品類の多くは焼けており、廃棄に伴うものと想定される。ここでは製品のうち、主なものを図示した。１～３は三又鍬、４は大形の又鍬、５は平鍬未製品、６は鋤の柄部、７は組合せ着装具、８は斧柄、９、10は杓子、11は火鑽臼、12は皿、13、14は漆塗の高坏、15～17は木甲である。なお、木甲は木枠組と想定される箇所の地山上面に堆積する黒色土中より出土しており、水さらし状遺構埋没時の流れ込みと想定される。詳細については本報告にて行うが、各木製品の所属時期は周辺から出土した土器より、１～３、６、７、９、11、12が弥生後期、４、５、８、10、13～17が弥生中期前半に概ね区分される。

４．出土土器・石器（第６図）　土器、石器類は総計700箱程度に及ぶ膨大な量となっている。ここではそのうちのごく一部の土器について説明を加える。１～４は１号木枠組遺構より出土し、１～３は甕で、４は壷である。いずれも弥生中期初頭に属する。５～９は木甲周辺より出土し、５～８は甕、９は壷である。５、８はやや古く中期初頭、６、７、９の遺物は中期前半に属し、木甲の所属は中期前半期で捉えられよう。10～13は高坏周辺部の木器集中部Aより出土し、10、11は甕、12、13は壷である。中期初頭に属する。14～17は木器集中部Bより出土した遺物で、14、15は壷、16は小形甕、17は器台である。概ね弥生後期前半期に属する。18は２号流路より出土した器台である。概ね弥生後期前半に属する。そのほか、弥生土器以外にも攪乱や遺構上面より須恵器や土師器類が出土している。これらに伴う遺構は確認されていないが、特に注目される遺物として８世紀代と想定される墨書土器が出土している。（写真１）

５．その他の遺物　そのほか、チャンチンモドキ、イチイガシ、アカガシ、コナラ属など種実遺体等約350点、イノシシ、ニホンジカの獣骨類約10点が出土した。

Ⅲ　まとめ

以上のような遺構、遺物が検出されたA-2区の特徴についてまとめる。時期的変遷としては１号流路が中期初頭期～前半期より水さらし場として利用され、その上流には堰が設けられ水量調整が行われる。その後、中期前半期には水さらし場は埋没し、中期後半には次第にその流れを変え、後期には上流に２～４号流路が新たに流れる。この流路に堰を設けて水流調整が行われたことから、次第に１号流路がほぼ埋没状態となり、水の流れる場所はやや西側へと移動するようになるものと想定される。また、流路際の特に南側には掘立柱建物群が営まれる。隣接するＢ区の住居跡群が広がらないことから、これら小規模の建物群は倉庫などとして利用されたのだろうか。いずれにしても、この流路は前期末より人為的に手が加えられ、隣接するＢ区の集落が継続する後期末まで流れていることから、大肥川と共に集落を囲う環濠のような役割を果たしていた可能性が高い。また遺物では、木甲[(2)]を含めた弥生期の多数の木器類が出土し、木材の加工や貯木、製品の廃棄など当該期の多彩な生活の一端を窺い知れる貴重な資料として注目される。

註１　『長野小西田遺跡』北九州市埋蔵文化財調査報告書第248、262集　北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室　2000、2001

註２　現在、組合せ式木甲が確認されている遺跡は、生立ヶ里遺跡（佐賀）、原の辻〔川原畑地区〕遺跡（長崎）、原の辻〔不條地区〕遺跡（長崎）里田原遺跡（長崎）、阿方遺跡（愛媛）、百間川兼基遺跡（岡山）、南方遺跡（岡山）、八日市地方遺跡（石川）である。

調査区遠景（北から）

調査区全景（真上から）

写真図版 2

調査区近景（北から）

水さらし場状遺構（真上から）

水さらし場状遺構検出状況（東から）

水さらし場状遺構完掘状況（東から）

水さらし場状遺構完掘状況（北から）

導水路状遺構完掘状況（西から）

1号木枠組遺構完掘状況（北から）

2号木枠組遺構完掘状況（北から）

堰状遺構完掘状況（東から）

杭列（堰）完掘状況（西から）

木製品群出土状況①

木製品群出土状況②

木甲出土状況①

木甲出土状況②

木甲出土状況③

高杯出土状況

三又鍬出土状況①

三又鍬出土状況②

三又鍬出土状況③

三又鍬出土状況④

三又鍬の刃出土状況

三又鍬の刃出土状況

又鍬出土状況

又鍬出土状況

鋤柄出土状況

組合せ着装具出土状況

三又鍬、火鑽臼、皿等出土状況

平鍬未製品出土状況

泥除出土状況

又鍬出土状況

斧柄等出土状況

杓子出土状況①

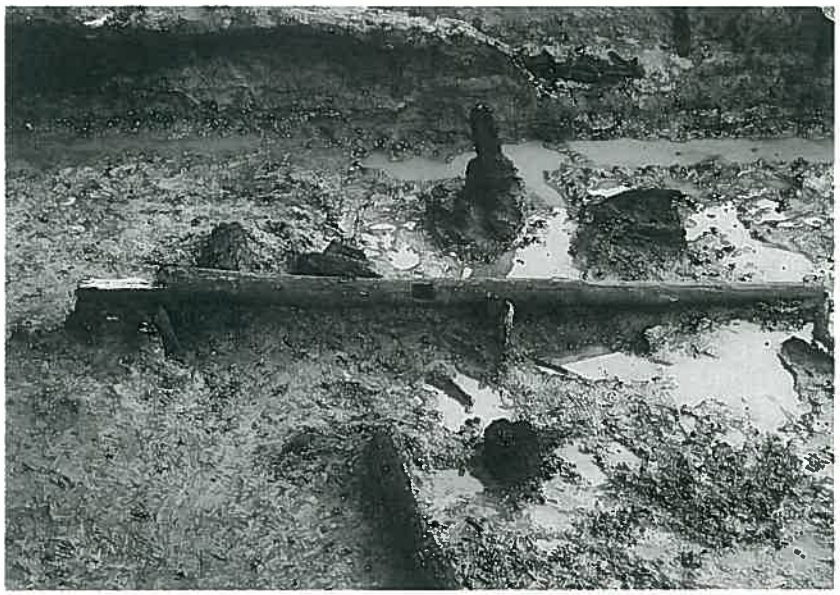
杓子出土状況②

不明木製品出土状況①

不明木製品出土状況②

不明木製品出土状況③

不明木製品出土状況④



建築部材出土状況①

建築部材出土状況②

建築部材出土状況③

礎板柱木出土状況①

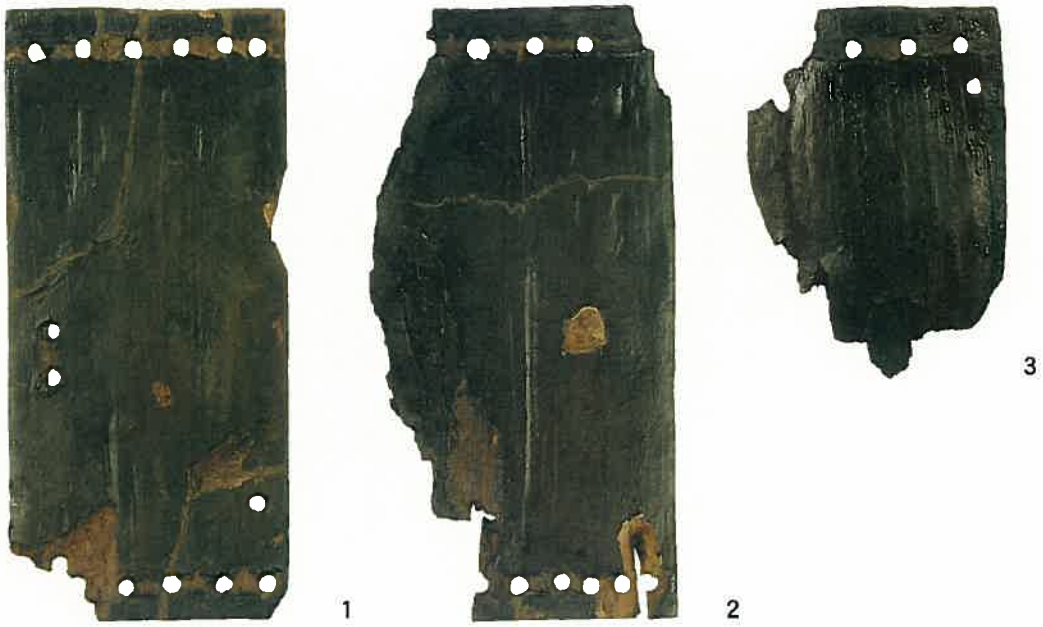
礎板柱木出土状況②

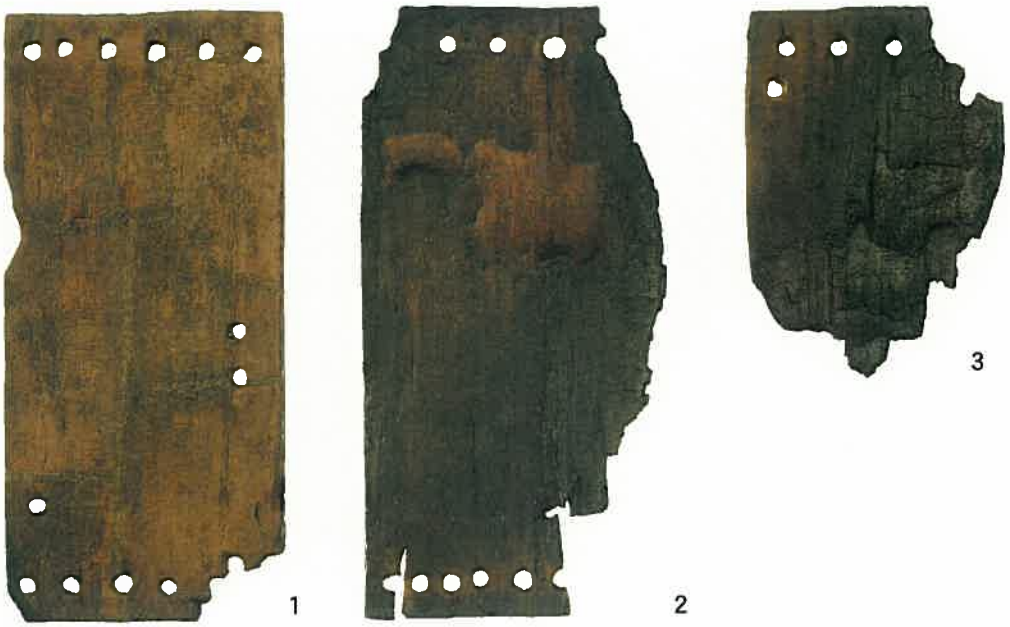
柱木出土状況③

土器出土状況①

土器出土状況②

土器出土状況③

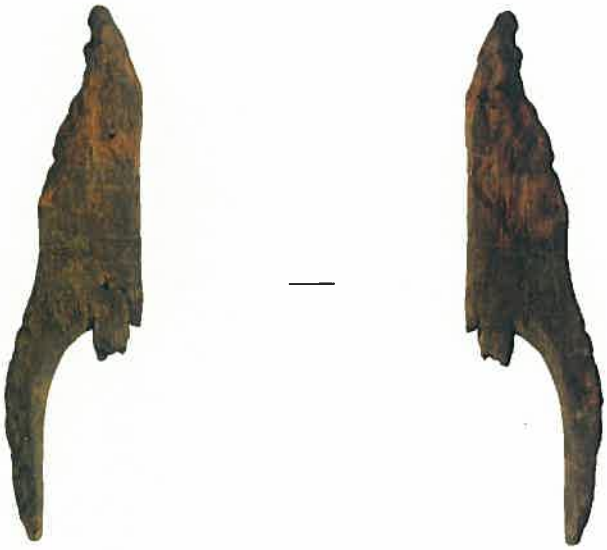




木甲（上段表、下段裏面）

4

5



6

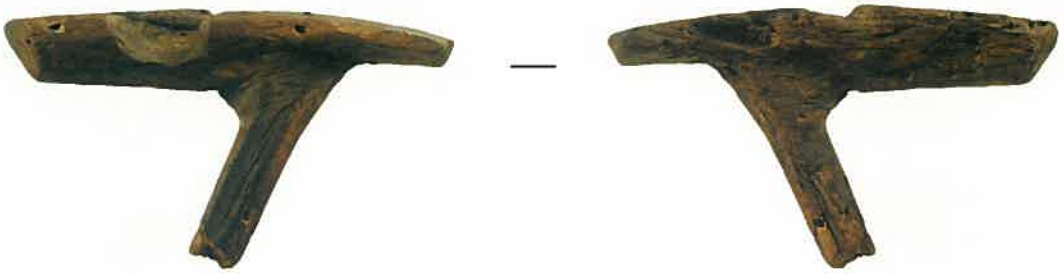
7

8

9

農具類

農具類



20

21

22

工具・高坏

23

24

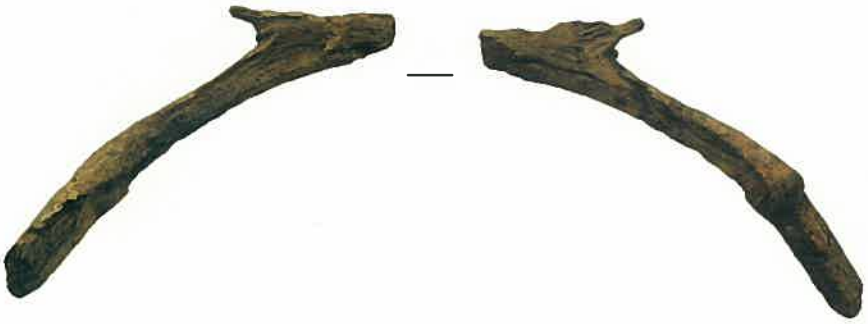
25

26

容器類

27

28


29

38

30

31

32

33

35

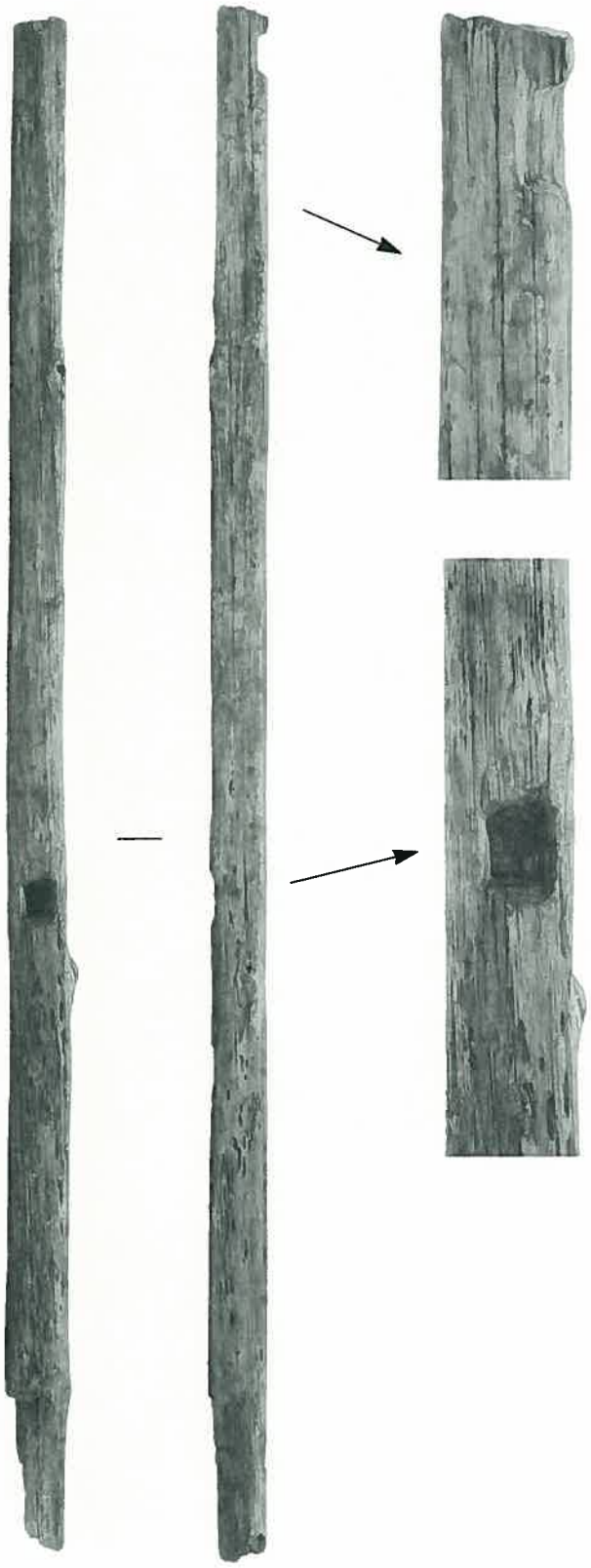
36

39

34

37

雑具・不明木製品



40

41

建築部材

42

43

44

45

46

47

48

49

50

建築部材

51

52

53

57

58

54

55

56

59

建築部材

60

61

62

63

64

66

65

67

部材・柱木

報　告　書　抄　録

ふりがな	おおひいせき
書名	大肥遺跡Ⅲ
副書名	
巻次	
シリーズ名	日田市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第67集
編著者名	渡邉隆行
編集機関	日田市教育委員会文化財保護課
所在地	〒877-0077　日田市南友田町516-1
発行機関	日田市教育委員会
所在地	〒877-8601　日田市田島2-6-1
発行年月日	2006年３月20日

ふりがな 所収遺跡名		ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
			市町村	遺跡番号					
おおひいせき 大肥遺跡	A2	ひたしおおあざおおひ 日田市大字大肥 あざほうしぐち 字方司口ほか	44204－6	651004	33° 21′ 34.96″	130° 52′ 53.64″	20020819～ 20030215	約1000㎡	ほ場整備

所収遺跡名		種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
大肥遺跡	A2	集落	弥生時代	流路	４条	石器、木器、土師器 須恵器、弥生土器	漆塗り木甲
				導水路状遺構	１基		
				木枠組遺構	１基		
				堰	２基		
				堀立柱建物	４棟		

大肥遺跡Ⅲ

2006年３月20日

編集　〒877-0077　大分県日田市南友田町516-1
日田市教育委員会文化財保護課

発行　〒877-8601　大分県日田市田島2-6-1
日田市教育委員会

印刷　〒877-0076　大分県日田市亀川町848-1
㈲インデバイス